

アイヌ古式舞踊



アイヌ古式舞踊と伝承

2019(平成31)年には、ラグビーワールドカップ2019の札幌会場(札幌ドーム)において、ホストシティパフォーマンスとして、各地域のアイヌの人が集まり、アイヌ古式舞踊を披露しました。



また、2020(令和2)年に開業した民族共生象徴空間(ウポポイ)では、アイヌ古式舞踊を取り入れた「伝統芸能上演プログラム」を披露しています。多くの地域の伝承者に協力をいただきながら、様々な時代の芸能を伝承、復興し、その魅力をお伝えできるよう、取り組んでいます。



公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住所:〒059-0902

北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

電話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685

<https://ainu-upopoy.jp/>

監修:公益社団法人 北海道アイヌ協会

重要無形民俗文化財の指定とは

重要無形民俗文化財は、衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習及び民俗芸能で人々の生活の推移の理解のために欠くことのできないものなから、特に重要なものとして、文化財保護法に基づき文部科学大臣が指定するものをいいます。

アイヌ古式舞踊は、民俗芸能として、重要無形民俗文化財の指定を受けました。

1984(昭和59)年1月、地域の8保存会及び連合保存会が、保護団体として指定され、1994(平成6)年12月、新たに9保存会が保護団体として追加されました。

指定保護団体

昭和59年1月21日指定

①旭川チカップニアイヌ民族
文化保存会

②白老民族芸能保存会

③平取アイヌ文化保存会

④静内民族文化保存会

⑤浦河ウタリ文化保存会

⑥帯広カムイトウポポイ保存会

⑦春採アイヌ古式舞踊釧路

リムセ保存会

⑧阿寒アイヌ民族文化保存会

平成6年12月21日指定

⑨札幌ウポポイ保存会

⑩千歳アイヌ文化伝承保存会

⑪鶴川アイヌ文化伝承保存会

⑫門別ウタリ文化保存会

⑬新冠民族文化保存会

⑭三石民族文化保存会

⑮様似民族文化保存会

⑯弟子屈町屈斜路古丹アイヌ

文化保存会

⑰白糠アイヌ文化保存会

ユネスコ無形文化遺産登録とは

祭りや伝統芸能、口承文化などの無形文化遺産のなから、人類共通の遺産として特に保護すべきものを無形文化遺産保護条約に基づき一覧表に記載し保護の重要性に関する意識を一層高めようとするものです。

アイヌ古式舞踊は、2009(平成21)年9月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。この無形文化遺産の中には、能楽や歌舞伎、雅楽など、日本を代表する伝統芸能も含まれています。

アイヌ古式舞踊

アイヌの人たちは祭りや儀式などで人が集まった時には、歌ったり踊ったりしました。踊りは各地の方言によって「リムセ」、「ホリッパ」、「ウポポ」、「ヘチレ（ヘチリ）」などと呼ばれ、その種類は多種多様です。

狩猟や採集の対象であった動植物をモチーフとして表現したり、体力の続く限り踊る、体力くらのようなもの、杵つき等の作業の様子を踊りにしたものなどがあります。こうした娯楽としての踊りの他に、神々への感謝の気持ちを表す踊りや、魔をはらうための踊りもありました。アイヌの言語学者である故・知里真志保氏は、アイヌの歌や踊りについて、「生命を脅かす諸々の悪魔を威嚇して遠ざけ、良い神々の助けを呼ぶためのものであり、生きるための真剣な努力なのである」と解説を記しています。

現在では、自分が楽しむものから、劇場で上演するなど、観客に見せるという要素も加わっています。また、歌のメロディーや歌詞が似ていても意味や解釈が異なっていることがあり、地域や時代により変化してきたとも考えられます。



記録映像「白老アイヌの生活」(1925(大正14)年)より



「アイヌ民族文化祭」主催:北海道アイヌ協会

地域に伝わるアイヌ古式舞踊

アイヌ古式舞踊は、地域によって伝承曲目が異なり、その舞い方に小異があるという特色がみられます。

例えば、「鶴の舞」は、帯広ではサロルン リムセ、釧路、阿寒ではサロルンカムイ リムセ、白老ではサロルンチカア リムセ、浦河ではチカアネ、静内ではホイヤオー、平取ではハララキ、旭川ではチカア ウポポと呼ばれるなど、地域によって、それぞれ構成や歌、踊り方が異なっています。



サロルン リムセ(帯広)



ホイヤオー(静内)